九月二十六日　のど自慢で、出場者みんなの住所・氏名がわかったら興味がある。不合格者を秘密にしなければならない理由があるのか。「何々の催しが市内のデパートで」というニュースがある。有益な催しなら、見に行こうという者のために、そのデパートの名を言っても、特定の業者の利益をはかったとして、非難されることはないと思う。テレビの画面に多く説明の文字を入れれば、耳の遠い人はありがたい。一般の人に邪魔なら、難聴者用のチャンネルを設けることも、技術的に可能ではないか。以上は、NHK視聴者会議で私が述べたこと。次回は一月にある。みなさんの意見も予めきいておきたい。

九月三十日　大正中期から昭和の初期まで、今の市役所の場所にあった葛塚小学校の校庭で、毎年北蒲西部七か町村十七小学校のリレー大会が開かれた。私も嘉山小学校の選手として出場した。当時をなつかしく思う人も多いだろう。葛塚東小学校で開かれた市内小学校親善運動会で、祝辞の中でその一つを話したが、児童には実感がわかないらしい。

十月一日　豊栄町ができた日と市制施行の日に生まれた人に、記念品をさしあげたいと思い、報告を求めていたら、豊栄町のできた日の出生者が二人あった。市制施行の日に生まれた笹山の中沢裕一君には、市制施行一周年の日に記念品をさしあげた。競馬場勧務者の子どもで、その後市外へ転住した。その後の来住者に該当者はないらしい。

十月三日　建築中の両津市保健医療センターを見る。市立病院、保健衛生センター、特別養護老人ホームを合わせた施設である。総事業費が三十億円。わが市より人口が二万人少ないのに、この巨費を投じて事業実施にふみきったことに驚嘆する。もっとも、人口が一万人減って施設が余ってくる。わが市は、人口急増に対応する施設整備に追われている、という相違がある。

十月四日　市外の各界の代表的な人たちから、豊栄市の将来はどうあるべきか、につき語ってもらう。県の南雲出納長、新大の小島教授、第四銀行の渡辺常務、新潟日報の柴田報道部長代理の四人である。私の気付かなかったアイディア、考えていたことを力づけてくれる意見、人口だけ増えるが街としては態依然としている、という耳の痛い批判などさまざまだ。この座談会記事は記念誌に載せる

十月五日　職員採用の第一次試験を行う。応募者は、一般事務二人に対し六十四人で三十二倍、タイピスト一人に対し二人で二倍、消防士二人に対し二十人で十倍、栄養士一人に対し四人で四倍、調理手五人に対し十五人で三倍である。

十月十日　体育の日ということもあって、記念競技会が七種目行われた。今月から来月にかけて記念行事が多い。次の記念行事は十年後になるだろう。将来に夢をもつのはいいが、今回の記念行事に多く参加していただきたい。

市長の日誌　石井耕一

やあ!! おげんきですか

四三歳で県縦断駅伝に初出場　田上修二さん（栄町）

▲「早く、豊栄の選手層が厚くなって欲しいです」と、後継者が育ってくれることに期待をかける田上さん

お疲れさまでした

「県縦断駅伝は、先月の二十七、二十八日の二日間行われたんですが、私は、初日のアンカー（大積・長岡間の十二・九キロメートル）を走らせてもらいました。誰もいない山の中を走る人もいるのに初出場の私が、沿道に沢山の応援者がいる区間を走れただけでうれしかったですね」

走るようになったきっかけは

「十年くらい前になるでしょうか、二人の子供達が幼稚園に行っていた頃、身体を丈夫にするために、豊栄駅近くの石動神社まで子供と一緒に走ったのが、今思うときっかけのようです。それでも二年くらい続いたでしょうか。四、五年前からは、早朝、犬と福島潟方面へ走っています。往復四キロメートルほどです」

走っている時は、どんなことを考えているものですか

「競技中は、相手に負けたくない、追い越されたくない中、二十位でしたが、豊栄が強くなるためには

「豊栄は、選手層が薄いですね。それで出れたようなものです。とにかく層を厚くすることが必要ですね。そのためには、毎日走っているような人とか、中学生、高校生の中から人材をピックアップし基礎づくりをすることが、大事なことだと思います」

一般に豊栄のスポーツ熱はどんなものだと思いますか

「夜間、学校の体育館などかなり利用されているところを見ても、スポーツ熱は、盛んな方だと思います。ただ残念なことに、施設が立ち後れている現状であることは、確かだと思います。施設とスポーツをする人の努力が並行して、はじめて良い結果が出るんではないでしょうか」

最後に一言…

「言い尽くされていますが身体のために、何かスポーツをすることは、非常に良い事だと思います。大事なことは無理しないで、やれる範囲で持続できるものを選ぶということですね」

田上さんは、トレーニングパンツにランニング姿で、今日も走り続けています。

出土品は語る（30）

縄文時代から弥生時代へ

長く続いた縄文時代も終りをつげて弥生時代となりました。豊栄においては晩期縄文の鳥屋を最後に引越と城山から弥生時代がはじまります。あれ程すばらしい文化を生んだ鳥屋人が何処へ移動したのか、なぜ消えたのか、その原因は一切不明です。水面が上昇して彼等の住居が水没したようです。又鳥屋と横山間も水没して鳥屋が離島になって生活ができなくなったことも考えられます。なぜ水面が上昇したのか。その原因は三つあると思われます。―は縄文時代に現在よりも気温が昇り海面が上昇した時代があった。2は砂丘が発達し河川が直接海に流入できず湛水した。3は地盤沈下です。

縄文時代について驚くべきことは継続時代の長いことです。約九千五百年前から二千三百年前まで約七千年間独自の石器時代文化を続けたことは世界史上類がありません。

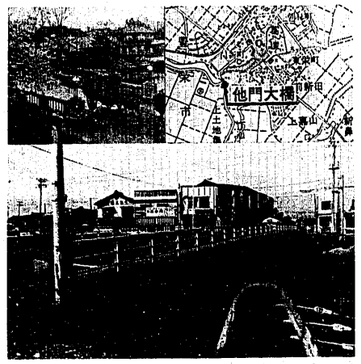
弥生文化から今日まで二千年間のめまぐるしい程の文化の変動から比較すれば石器を使用した文化にあまり大きな変化は認められません。海に囲まれた日本は舟の発達が不十分の時代なので大陸との間に人物や文化の交流がみられなかったのが原因のようです。

日本人は何処から渡来したか種々の説がありますが大陸から来たモンゴロイドといわれています。もと皮膚の色から黄色白色黒色の三大人種と呼ばれましたがモンゴロイドは昔の黄色人種のことです。皮膚の色は黄色ないし黒褐色、毛髪は黒ないし黒褐色の剛毛、直毛、体毛は少なく偏平な顔です。特に小児の時尻のあたりに青色の斑点があり蒙古斑といわれモンゴロイドの特徴です。このモンゴロイドは氷河時代にマンモス象を追ってベーリング海峡を渡り南北アメリカまで移住しアメリカインデアンとなったといわれます。南は海を渡ってインドネシア、マレー、フイリピン諸島の海洋民族となったといわれます。日本へ来たのも氷河時代です。氷河時代には日本は九州方面と北海道方面が大陸と続き日本海は大きな湖でした。その頃マンモスやナウマン象を追って日本へやって来ました。日本の各地にマンモスやナウマン象の骨が発見されています。この間神戸市出合遺跡から岡山大学がまだ確認されていませんが、七十万年前の石器を発掘して話題になりました。今から約一万年前喫かくなり氷がとけて海水が上昇し現在のように日本列島となり大陸から孤立しました。その旧石器人が日本に残り縄文文化を生み又弥生文化も生んだといわれます。大正年間まで縄文はアイヌ、弥生は日本人がつくったといわれましたが人骨の調査からどちらも日本人であることがわかりました。

―畠山　佑二記―

はし

(19) 他門大橋



▶ 昭和九年に出来たコンクリート橋（写真上）
現在の他門大橋（写真下）

「以前の橋の名称は、"大橋"が正しいのですが、他門にあったので"他門の大橋"と言ったようです」

今回は、葛塚地区の代表的な橋とも言える"他門大橋"を紹介します。橋のたもとの田辺二郎さん（六七歳）は、

「私が生まれた大正二年にそれまでの木橋（板橋）が、改築され、確か昭和九年だったと思いますが、コンクリートの橋が出来、現在の永久橋になったのは、昭和四十四年の七月です。当時の板橋も太鼓橋でしたが、ワラ船や、ヨシを乗せた舟は、積み荷が多いと、いったん橋の上に降ろして、船が橋を越してから、荷物を積み直したりしたものです。川蒸気船は、昭和初期頃まで通っていたでしょうか。煙突が高すぎて、煙突を倒して通った話は有名です」

子供の頃の想い出を……

「この辺の人は、ここで泳ぎを覚えました。船が通ると波が立つので、面白がって泳いだり…今考えると、危険なことだったんでしょうけどね。梅雨時の雨で増水すると、福島潟から、畳一・枚から二枚くらいの大きさのヨシの島が流れて来て、水がよどんでいる所に張り付いたりもしました。

橋にまつわる話で、何か

「現在の永久橋の前の、コンクリートの橋を造る工事は非常に、難工事だったんですね。地下水とか、天然ガスなどが噴出して、潜水夫まで工事に加わったんですよ。それも、終戦後、バスが大型になると、よく曲がれないでね、家のひさしにぶつかりそうになることが何回かありました。それで、橋のあもとを広げたんです。いやあ、すべて遠い昔の話ですよ」

魚は、もちろん沢山取れましたが、阿賀野川が増水すると海水の逆流で、海の魚も取れたものですよ。夏の遊びは、橋の上から飛び込んだりする泳ぎがもっぱらでしたが、冬雪が降ると、橋の傾斜を利用して、足だの裏に金具を付けた金下・た、金下・たを買ってもらえない子供は竹下・たで遊んだものです。今で言えば、スケートみたいなものでしょうか」